



「高品質のねじ」を充実した設備のある生産工程で作り込む

株式会社日滉精螺製作所 奈良県天理市

常に顧客優先をモットーに、高品質のねじを作り続けている株式会社日滉精螺製作所。同社は、小ねじの専門メーカーとして1965年創業。以来、タッピングねじ・組込みねじ等をベースとした座金組込み分野で、他社との差別化を図った独自の生産供給システムを構築し、現在の経営基盤を確立した。

同社は「不良品は社外に出さない」という方針のもと、厳しい検査基準や出荷基準を設定し、徹底したチェック作業を実施している。この厳しい品質検査に裏打ちされた高品質のねじで、多様化するユーザーのニーズに答えている。

会社概要



会社名：株式会社日滉精螺製作所
所在地：奈良県天理市西長柄町492-1
電話：0743-66-3338
FAX：0743-66-3378
創業：1965年（昭和40年）
設立：1972年（昭和47年）
代表者：代表取締役 田中 祥元
資本金：3,000万円
従業員：70名
事業内容：タッピング・座金組込みねじ・
アブセットボルト等の製造
URL：<http://www.nikkoseira.com/>



株式会社日滉精螺製作所の本社工場

優れた締結技術で高品質のねじを提供

「ねじは品質が決め手」と締結技術に誇りと責任を持って日々邁進している株式会社日滉精螺製作所。同社の創業者である田中祥元氏は、各種ねじを製造・販売する会社に8年間勤務し、その会社の小ねじを制作する協力工場として1965年に創業。72年、法人に変更し、株式会社日滉精螺製作所を設立。同年、組込み機などの機械を増設し、新たな成長が見込めるタッピングの製造をスタートさせた。



小ねじ、タッピングねじ※、アブセット組込みねじなど同社の高品質な主な製品

創業時から約10年間は、社長自ら、ねじを作り営業・配達もこなし、ほ

とんど休む暇もなく働く日が続いた。その後、工場を増設・増築し、社員も30名位になる頃には、経営者としてマネジメントについて考える時間も持てるようになった。

※タッピングねじは、めねじ加工されていない、かつ、ねじの直径よりも小さい下穴に直接ねじ込むことで、相手部材に自らねじ立てをしながら締結できるねじの総称。

充実した生産設備と5Sが徹底された工場・事務所

高品質のねじは、組込みねじ、タッピングねじ、小ねじなど形状が違う約8,000種類の製品がある。

これらの製品は、大手企業で厳しい管理のもとに製造された冷間圧造用銅線に、同社独自の「冷間圧造・切削技術」を施すことにより、高品質な製品に仕上がっている。

この高品質な製品を作り出すのが、充実した生産設備で、安定した品質のねじが毎月1.3億本、製造される。また選別機や検査機、測定機器等を積極的に導入し、中間検査及び最終検査の高度化

も進めている。さらに検査精度が高い画像選別機も導入し、最終の検査体制を更に強固なものとしている。今では95%の製品は全数検査を実施しているという。

また機械設備だけでなく、整然とした工場にも目を見張るものがある。田中社長は、「きれいな環境でモノを作らなければ、良いものはできない」と5Sを徹底させている。

生産システムが稼働している中、工場を見学したが、生産ラインを見渡してもごみ1つ無く、整理・整頓されていた。

また、倉庫内でも出荷に備えた製品が整然と格納しており、5Sの徹底ぶりが伺えた。さらに工場だけでなく、本社事務所も、整理・整頓が行き届いていた。



5Sが徹底している同社工場の製造現場風景

ISO取得により社員全員の改善意識が向上

信頼の品質を目指して2000年3月にISO9001を、また2003年12月には、ISO14001の認証を取得した。これを機会に全社一丸となって、より一層顧客に満足頂ける高品質な製品の提供を心掛け、全社員で取引先の「締結コストの低減」「作業性の向上」「作業環境の改善」につながる活動に取り組んでいる。特に社長の長男である祥敦専務が先導役となって取組んだQC活動では、生産リードタイムが見違えるほど短縮した。今では、納期に遅れることなく「良いものを早くジャストインタイムで納めてもらえる」と取引先に高く評価されている。

ISO取得により社員全員の改善意識が高まり、改善個所に気づいた社員が作成した提案書が、月間目標と共にところ狭しと掲げられている。



5Sの月間目標と社員全員が取組む改善活動の提案書

生き活きとした組織づくりのための人材教育

表現は少々厳しいが、「鈍い者には良いものは作れない」との社長の思いから、毎年、ほとんどの社員を外部セミナー等へ積極的に参加させている。「生き活きとした組織作りのために、外部セミナー等に参加してもらっているが、受講後の社員のやる気は見違えるように良くなっている」と社員の成長に目を細める田中社長。厳しい言葉の裏には、社員を大切にする社長の熱い思いが込められている。

また「企業は継続することが一番大事。事業の年間計画については、トップダウンで指示を出す、各部署、各社員が年間計画に基づいて自らの計画と目標を持ち、全社員が一丸となって業務に取り組めるのも、外部セミナー受講の成果であろう」と社長は言う。

重厚な商品を支え続ける高品質のねじ

同社の製品は、自動車や機械製品の内装部分に使用されることが多く、縁の下の力持ち的な存在であるが、田中社長は「安定した品質がなければ取引先にも使用者にも多大な迷惑をかけてしまう。これからも高品質な製品を提供し続け、社会に貢献したい」と熱く語る。自動車や医療機器など多様な商品を支え続ける同社の高品質のねじには、「不良品を出さないメーカー」を目標に業務に取り組む全社員の真摯な姿勢とバイタリティー溢れる社長の思いがぎっしり詰まっている。

(橋本公秀、太田宜志)